

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場

第11回 開催報告

まちなか作戦会議～まちの風景を更新するヒントと未来の対話～

2026.6.28

開催報告

テーマ

まちなか作戦会議～まちの風景を更新するヒントと未来の対話～

開催概要

- 日時 : 2026年6月28日（日）14:00-17:00
- 開催場所 : 伊那市産業と若者が息づく拠点施設
allla（アルラ） 1F 多目的室
- 参加者 : 約45人（一般参加：約30人、協議会メンバー、市職員、関係者：約15人）

プログラム

公園や駐車場など公共空間を楽しく変えるヒントを、伊那・塩尻の事例から学び、「まちなかエリアでやりたいこと」を地図に書き込むワークショップを通して、小さな実践につなげる場とする。

1. これまでの振り返り・趣旨説明
2. 公共空間の使い方、プレイスメイキングとは？
政金 裕太 さん／信州大学研究員
3. 話題提供1 「「いなまち朝マルシェ」から広がる心地よい暮らしとセントラルパークの変化」
平賀 裕子 さん／ワイルドツリー代表・いなまち朝マルシェ実行委員
4. 話題提供2 「「楽しい！」がまちを変える ―塩尻大門マルシェから見た、まちの未来―」
草野 絵理さん／株式会社e-yo代表取締役・塩尻大門マルシェ代表
5. グループワーク
「地図に書き込もう！みんなのまちの楽しみ方」

公共空間の使い方、プレイスメイキングとは？ 政金 裕太 さん

【プレイスメイキングってなに？】

- ・プレイスメイキングとは、一言でいえば「みんなが自然と集まりたくなる、居心地の良い公共空間をつくること」
- ・単に綺麗な道路や施設をつくることではなく、そこにいる人たちが笑顔になれたり、自分らしく過ごせたりする場所をみんなで育てていくプロセスを大切にする。
- ・「コミュニティこそが専門家である」というプレイスメイキングの原則がある。つまり、そこに住んでいる皆さんがその場所のことを一番よく知っているということ。そこに住む皆さんが「こうだったら楽しいな」と感じる感性や観察こそが一番の力になる。

【特別なことではなく、日常の延長線上に】

- ・「プレイスメイキング」は大掛かりなものでなくてよい。桜の下にシートを敷いて、好きな食べ物を持ち寄り、みんなでおしゃべりを楽しむ。あの「お花見」の何気ない風景こそがすでにプレイスメイキングの原点である。
- ・例えば、使われていない空き地にベンチを一つ置くだけでも、そこは誰かにとっての「目的地」に変わる。
- ・難しいルールやデザインに縛られず、もっと身近で、もっと自由な発想で「どうすればみんながもっと幸せに過ごせるか」を考えることが、これからのまちづくりには欠かせない。

【大切にしたい5つの視点】

- ・プレイスメイキングの活動を通じて目指すのは、以下の5つの幸せである。
 - 1 地域のウェルビーイング（心地よい暮らし）
 - 2 経済発展（まちの経済が元気になること）
 - 3 環境の持続可能性（自然や緑を大切にする環境づくり）
 - 4 文化的アイデンティティ（地域の歴史や個性を大切すること）
 - 5 健康と幸福（みんなが健やかで笑顔であること）

【総括】

- ・まちは、一部の人や行政だけでつくるものではない。
- ・失敗を恐れず、まずは小さなことから始めてみる。
- ・「ゆるやかな自由」を楽しむ心こそが、未来のまちをより活気ある場所にしていけるはずである。



政金 裕太 さん／信州大学研究員
まちなかエリア高度化WGメンバー

「いなまち朝マルシェ」から広がる心地よい暮らしとセントラルパークの変化

平賀 裕子 さん

ワイルドツリー代表／いなまち朝マルシェ実行委員

- ・蜜蝋キャンドル輸入卸「ワイルドツリー」を営む傍ら、農・森・人とまちをつなぐ多角的なプロジェクトに携わり、地域のウェルビーイング向上に寄与されている。
- ・「いなまち朝マルシェ」という活動が、どのようにまちの日常を彩り、人々のつながりを育んできたのかお聴きした。



【朝のひとときを、もっと心地よく —「いなまち朝マルシェ」の挑戦】

- ・2014年から始まった「いなまち朝マルシェ」は、単なるお祭りのような賑わいを目指すのではなく、「こんな朝の過ごし方があるといいな」という新しいライフスタイルを提案する場としてスタートした。
- ・毎年6月から10月の最終日曜日に開催され、新鮮な野菜を並べる有機野菜農家さんや、おいしいご飯を提供する飲食店さんが15店ほど集まり、「みんなで外で朝ごはんを食べる」という心地よい時間を共有し、開催回数は60回を超える。
- ・このマルシェの特徴は、経済効果よりも農家と飲食店とのマッチングや人と人とのつながりを大切にしている点、無理をして大きな規模を目指すのではなく、「実行委員がまず楽しむこと」を大切にしている点である。
- ・このマルシェには、昔からのお店の方と、新しくやってきた移住者の方や若い世代が自然と混ざり合う交流があり、そこから新しい物語が生まれている。
- ・また、信州大学生の関与は大きく、卒業後も関わり続ける「関係人口」の好例となっている。

【いなまち朝マルシェのコンセプト】

『伊那谷の魅力は、この美しい自然に寄り添った暮らしそのものです。美しい自然はおいしい野菜を生み、農という営みがまた美しい自然を作り出す。いなまち朝マルシェは、そんな魅力を発信、創造、次世代にツナグ場です。ゆるくて楽しい雰囲気、多種多様な人が集まり、ツナガリが生まれ、笑顔があふれる。エネルギーも、食も、人も、経済も、ぐるぐる回る小さな市を目指します。』

- ・当初からこのコンセプトを目指してやっており、そのほかの細かいことはその都度話し合いながら決めている。
- ・実行委員が「無理をしない」をモットーに、みんなが納得しながら10年以上にわたって活動が続けてきた。

【「駐車場」から「みんなのリビング」へーセントラルパークの変化ー】

- ・以前は「『パーキング』の『パーク』」と揶揄されていたセントラルパークも、いなまち朝マルシェ等をきっかけに少しずつその姿を変えてきた。
- ・2018年に「セントラルパークをまちのリビングに」というアイデアが生まれ、2020年には人や植物、動物と一緒に過ごせる「育つ公園」というコンセプトへと進化を遂げた。
- ・2022年の芝生化の際には既存のウッドデッキの再利用も視野に入れ、市民の皆さんが自分たちの手で古いウッドデッキを片付けたり、土を整えたりするワークショップが行われた。公園を作るプロセスそのものを楽しむことで、愛着をぐっと深めることができた。
- ・芝生化により、宿題をする小学生、お弁当を食べる高校生、芝生で寝転がる若者、夕方にお酒を呑んでいるサラリーマングループ… 今では季節を問わず、誰もが思い思いの時間を過ごせる、まちの大切な憩いの場となっている。

【これからの「まちづくり」に向けて】

- ・こうした活動によって、まちへの愛着が深まり、新たにお店を始める方が増えるという嬉しい変化が起きている。
- ・今の活動を次の世代にどうつないでいくか、そして個人の「思い」に頼るだけでなく、みんなで長く支え合える仕組みをどう作っていくかが、これからの大切な課題である。
- ・属人的な活動を次世代へ継承し、都市経営の視点から地域を支えるための「まちづくり会社」のような役割も必要だと感じている。

【まちなかエリア高度化ワーキンググループ感想】

- ・いなまち朝マルシェの活動は、効率や集客の数字を追いかけるのではなく、「人としての豊かさ」や「心地よい日常」を何よりも大切にしている。そこから生まれる人と人との絆がまちの元気につながっていると実感した。
- ・行政や専門家の方が市民の皆さんの自主性を支え、みんなが主役となってまちに関わっていく。そんな緩やかで温かい取組が、素敵なまちの未来を形作っていくのではないかと感じた。



【話題提供 2】

「楽しい！」がまちを変える ―塩尻大門マルシェから見た、まちの未来―

草野 絵理 さん

株式会社e-yo代表取締役／塩尻大門マルシェ代表

- ・「いーよ！」と何でも前向きに取り組む草野さんの姿勢を社名の由来とし、2024年に長野県塩尻市に(株)e-yoを設立
- ・大阪での飲食店やコワーキングスペースの勤務経験を経て2019年に塩尻市へ移住。「実践と仕組み作りで誰でもハッピーになれる社会へ」という思いで活動されている。
- ・現在は、「塩尻大門マルシェ」の運営や、「名もなき駄菓子屋」の経営を通じて、人が集まる仕組み作りを実践中
- ・草野氏が大切にされている「誰でもハッピーになれる仕組みづくり」とそこから生まれる魅力を軸に、これまでの活動や自身の思いについてお聴きした。



【「楽しい」を真ん中に ―塩尻大門マルシェの歩み―】

- ・2020年10月に始まった「塩尻大門マルシェ」は、現在では最大約80店、2,000人もの方々が訪れる賑やかなイベントへと成長し、これまでに30回以上開催している。
- ・このマルシェの最大の特徴は、「楽しいを真ん中に」というコンセプトである。
- ・このマルシェを「何かを始めたい人の最初の一步を応援する場」にしたいと考えている。「趣味を仕事にしたい」「初めてイベントに出店してみたい」という方々の背中を押し、実際にそこから自分のお店を構えるまでになった方もいる。
- ・マルシェのチラシに周辺店舗のクーポンを載せるなど、訪れた人がまち全体を回遊して楽しめるような工夫も凝らしており、マルシェがまちの元気につながる循環を作っている。

【話題提供 2】

「楽しい！」がまちを変える ―塩尻大門マルシェから見た、まちの未来―

【自分自身の「好き」を大切にする】

- ・塩尻大門マルシェの活動を始めたきっかけは、塩尻市に移住後に「自分は何が好きで、何ができるのか」と自分自身をゆっくり観察したこと。その中で地域のイベントの手伝いやタウンミーティングの司会など、多種多様な活動に顔を出すうちに、人との繋がりが広がり、自分でも気づかなかった「自分のできること」、「自分が必要とされること」、「自分がやりたいこと」が明確になっていった。
- ・最初飲み会のような気軽な気持ちで始めたマルシェは、コロナ禍の閉塞感も追い風となり多くの期待を集めた。
- ・しかし運営の継続には困難も伴った。運営の難しさや周囲からの厳しい声に悩んだこともあり、「何のためにやっているのか」と迷う時期もあったが、「楽しかったらいいんじゃないですか」という言葉に救われ、「自分が楽しむこと」を大切にする勇気を持てた。
- ・少し自分がわがままでいても、主催者自身が笑顔でいることが、結果として多くの人を惹きつけ、まちを動かす原動力となった。

【みんなで一緒にまちをつくる】

- ・一方で、自分一人だけでなく、周囲の方々や行政、商店街の皆さんと一緒に活動していくことも大切にしている。
- ・価値観の異なる意見に耳を傾けたり、話し合いながら「みんなが幸せになれる場所」を一緒に作り上げるプロセスそのものが、今の活気ある塩尻の姿につながっている。
- ・行政が掲げるまちづくりと、市民の「やりたい！」という小さな声が重なったとき、まちはぐっと魅力的になる。
- ・ボランティアに活動が続ける中で、大変なこともあるけれど、まちの皆さんと向き合い続けることでしか見られない「素敵な景色」がある。

【まちなかエリア高度化ワーキンググループ感想】

- ・「まちづくり」という構えるのではなく、一人ひとりが自分の「好き」や「楽しい」という気持ちを大切にすることが、未来のまちを作る近道だと確認できた。
- ・まずは小さな「やってみたい」を大切にしてみることに。そんな前向きな気持ちで、まちをより温かく、楽しい場所にしていこうと。そんな希望を感じさせてくれる貴重なお話をお聞きできた。



グループワーク 地図に書き込もう！みんなのまちの楽しみ方

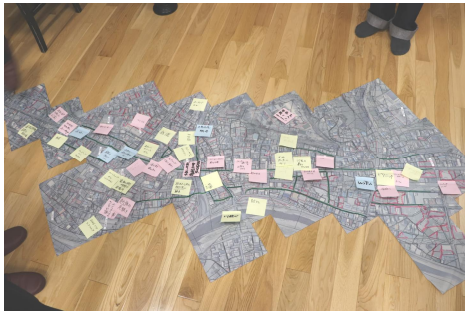
【前半】地図の色塗り・付箋貼り

グループワークでは、「まちをより良くしたい！もっと楽しく過ごしたい！」そんな思いを持つ参加者の皆さんが4つのグループに分かれ、まず、まちなかエリアの大きな地図から空き地・駐車場、道路など活用できそうな場所を見つけ、色を塗り、そこで「やりたいこと」、「あったらよいもの」、「気になること」を地図上に書き出した。



【グループ分け】

前半のグループワーク終了後、各グループで続けて対話する「小さな実践」につながるテーマ(やりたいこと)を選定した。その後、参加者は自分が関わりたいテーマのグループへと移動し、後半のワークに向けてグループを再編した。



Aグループ
テーマ『居場所づくり』



Bグループ
テーマ『桜・花見』



Cグループ
テーマ『飲み歩き』



Dグループ
テーマ『路地』

グループワーク 地図に書き込もう！みんなのまちの楽しみ方

【後半・発表・講評】

Aグループ：山寺駐車場の可能性「居場所づくり」

- ・「誰でも自由に過ごせる場所がほしい」そんな切実な願いから、山寺駐車場の活用を考えた。
- ・中高生がふらりと立ち寄りアーバンスポーツで汗を流したり、Wi-Fiを使って情報を交換したり、学校や世代を超えて、「ただそこにいるだけでいい」と思える居場所をつくりたい。
- ・居場所を通して、伊那市と関わりたい人が増えたり、将来伊那市に戻って来たい人が増えることにつながればよい。

【講評】

<平賀裕子さん>

- ・先日「高校生の居場所に何があるとよいか」を聞いたところ、「勉強スペース」、「漫画」、「ちょっとした食べ物」などニーズはさまざまであった。一方「Wi-Fi」と「電源」はみんなが必要と答えた。
- ・Wi-Fiや電源といった環境も大切であるが、誰かがそこにいるという安心感も重要である。
- ・いろいろな居場所があって、それぞれを好きな人がいて、選択肢が多いということが豊かなことであると思う。

<草野絵理さん>

- ・居場所づくりは難しいテーマだからこそ、グループの総意にこだわらず、個人が「これ面白そう」と感じた小さな種を育てていくと面白くなると思う。



まちなか作戦会議～まちの風景を更新するヒントと未来の対話～
グループワーク ワークシート

どこで

地図で見つけた「実践してみたい場所」を教えてください。

山寺駐車場と周辺の駐車場

誰に

どんな人が集まると楽しそうか教えてください。

誰でも！
居場所なんだから、
誰の居場所になってもいい。
ex. 学校帰りの高校生、仕事帰りの会社員、子育て世代の親子

何を

その場所で広げたい風景、具体的なアクションを教えてください。

中高生の立ち寄り、アーバンスポーツ
情報も共有、交流、はやく。
ex. 芝生で本を読む、テイクアウトしたコーヒーを楽しむ、ストリートピアノを置く、要は、何でも！

何が起これと嬉しい

その結果、どんな風景や効果が生まれたらよいか教えてください。

将来の選択肢が増える、伊那を知って
関わりたいと思う人が増える、学生たちの理由、
学校に似たコミュニティ、そこにイグナ
誰かが増える。
ex. 挨拶する人が増える、駅から歩くのが楽しくなる、まちなかで過ごす時間が増える

タイトル

話し合った「まちの楽しみ方」にワクワクする名前を付けてください。

「フリーコート」「ごちゃまぜ」「よ、いい校」
「ハコバ」
ex. ○○大作戦、○○化計画、○○ラガ

グループワーク 地図に書き込もう！みんなのまちの楽しみ方

【後半・発表・講評】

Bグループ：春よ来い（恋）－桜クエスト－

- ・南信森林管理署、竜北保育園、小鳩園、伊那年金事務所と連なる通り沿いの桜並木は、市内で最も早く開花する隠れた名所である。
- ・福祉まちづくりセンター近くの天竜川沿いにも素晴らしい桜並木があり見事な花を咲かせる。
- ・この2拠点でお花見をしたい。
- ・「桜パトロール」を通じて開花を待ちわび、満開の桜の下で花見を楽しみ、恋の花も咲かせる、そんな四季の彩りを感じるイベントプランである。
- ・新たな桜の名所誕生、お花見後の夜のまちなかへの誘導により経済効果も生むプランである。



【講評】

<平賀裕子さん>

- ・両方の拠点を活用したシミュレーションはすぐにでも可能ではないか。
- ・ぜひ早速来年から実践してほしい。

<草野絵理さん>

- ・絵が見える、すぐにでもできそうなイメージである。
- ・「あそこでお花見が始まると春だよ」と言われるような、まちの文化に定着しそうな予感がする。
- ・大きく構えず、まずは3人でもいいから小さく始めて、そこから大きく育んでいく過程が醍醐味である。

まちなか作戦会議～まちの風景を更新するヒントと未来の対話～
グループワーク ワークシート

どこで

地図で見つけた「実践してみたい場所」を教えてください。

南信森林管理署・社協 沿いにある桜の木の下で
お花見する。 (川沿いの) [石のベンチがあった]

誰に

どんな人が集まると楽しそうか教えてください。

誰によるものが
どんな感じがあるか

高校生、会社員、子供、親子連れ、お年寄、大学生

ex. 学校帰りの高校生、仕事帰りの会社員、子育て世代の親子

何をする

その場所で広げたい風景、具体的なアクションを教えてください。

お花見 (伊那市で一番早く咲く！)

ex. 芝生で本を読む、テイクアウトしたコーヒーを楽しむ、ストリートピアノを置く

何が起こると嬉しい

その結果、どんな風景や効果が生まれたらよいか教えてください。

春を感じ、人と会える、新名所が誕生、桜パトロール
その後、沿道に人が流れる、もっと桜の木を植えたくなる

ex. 挨拶する人が増える、駅から歩くのが楽しくなる、まちなかで過ごす時間が増える

タイトル

話し合った「まちの楽しみ方」にワクワクする名前を付けてください。

春よ来い(恋)
－桜クエスト－

ex. ○○大作戦、○○化計画、○○ラボ

グループワーク 地図に書き込もう！みんなのまちの楽しみ方

【後半・発表・講評】

Cグループ：出会える飲み歩き「裏」街道

- ・「伊那の夜をもっと面白くしたい!」そんな熱い思いから生まれた「伊那"裏"街道」プラン
- ・この日ばかりは「酒下神社」と呼び変えた「坂下神社」を拠点に周辺ルートを飲み歩くプラン
- ・お酒好きはもちろん、ソフトドリンクを用意することで、親子連れや学生まで、誰もが楽しめる「出会いの場」にしたい。
- ・偶然出会った人と「飲み友」になり、一緒に飲みながら川沿いの花火を眺められたら素敵！

【講評】

<平賀裕子さん>

- ・坂下神社の「坂」を「酒」と見立てた遊び心がよい。
- ・最近いなまちの飲み歩きイベントにも親子連れが増えている。親子連れを呼び込むためには「食」が欠かせない要素になる。

<草野絵理さん>

- ・お酒好きのための企画を作りながら、その裏で子どもたちが楽しめる要素をちゃっかり混ぜていく手法は、実はとても賢くて現実的である。
- ・この"裏"という言葉が持つパワーを、ぜひ形にしてほしい。



まちなか作戦会議～まちの風景を更新するヒントと未来の対話～
グループワーク ワークシート

どこで

地図で見つけた「実践してみたい場所」を教えてください。

伊那"裏"街道

誰に

どんな人が集まると楽しそうか教えてください。

お酒好きの大人から親子・学生まで

ex.学校帰りの高校生、仕事帰りの会社員、子育て世代の親子

何をする

その場所で広げたい風景、具体的なアクションを教えてください。

お酒飲める人も飲めない人も飲み歩き。

出会いの場がある。ソフトドリンクも。裏友

ex.芝生で本を読む、テイクアウトしたコーヒーを楽しむ、ストリートピアノを置く

何が起こると嬉しい

その結果、どんな風景や効果が生まれたらよいか教えてください。

"裏"街道で出会う飲み友(合コン)飲み友で
坂下神社が友達に。神社パワースポット。屋台も！

ex.挨拶する人が増える、駅から歩くのが楽しくなる、まちなかで過ごす時間が増える

→酒舌(さけした)。最後は川で花火。

タイトル

話し合った「まちの楽しみ方」にワクワクする名前を付けてください。

出会える飲み歩き"裏"街道

ex.〇〇大作戦、〇〇化計画、〇〇ラボ

グループワーク 地図に書き込もう！みんなのまちの楽しみ方

【後半・発表・講評】

Dグループ：いなまちSANPO部「いなブラリ」

- ・伊那のまちに張り巡らされた「路地」に注目した。
- ・学生が歩く路地、居酒屋が連なる路地、いろいろな路地を知って歩く選択肢が増えるといい。
- ・例えば伊那小学校の下路地は景色がよいが、夜は暗くて歩けない。安心して歩けるよう、街灯の整備なども必要
- ・紙媒体やスマホで手軽に活用できる「路地歩きマップ」を作成し、まるで「ブラタモリ」のように、その路地の隠れた魅力を紹介するガイド役と歩く人をつなぎたい。
- ・「いなまちSANPO部"いなブラリ"」と名付けて、路地歩きを伊那市の文化にしたい。



【講評】

<平賀裕子さん>

- ・自分のお気に入りの路地を共有したい人はいるはず。
- ・せっかくマップを作るのであれば、路地の歴史やPV撮影地といった情報も加え、「1路地に1案内役」がつくような、人との繋がりが広がるガイド付きマップに発展させれば本当に面白い。

<草野絵理さん>

- ・「散歩」は誰でもターゲットになる。そこに面白いコンテンツがあるとさらに盛り上がる。
- ・年代や性別でターゲットを絞るのではなく、「こういう思考回路の人」という視点で考えると、企画がもっとワクワクするものになる。

まちなか作戦会議～まちの風景を更新するヒントと未来の対話～
グループワーク ワークシート

どこで

地図で見つけた「実践してみたい場所」を教えてください。

路地・旧伊那街道

誰に

どんな人が集まると楽しそうか教えてください。

だれでも 全世代

ex.学校帰りの高校生、仕事帰りの会社員、子育て世代の親子

何をする

その場所で広げたい風景、具体的なアクションを教えてください。

表坂の端、マップづくり ウォーキング散歩イベント
アキ展望台 ライトBグループ

ex.芝生で本を読む、テイクアウトしたコーヒーを楽しむ、ストリートピアノを置く

何が起こると嬉しい

その結果、どんな風景や効果が生まれたらよい教えてください。

歩きながらつながる。
ハードルの低い主体的活動

ex.挨拶する人が増える、駅から歩くのが楽しくなる、まちなかで過ごす時間が増える

タイトル

話し合った「まちの楽しみ方」にワクワクする名前を付けてください。

いなまち SANPO部
"いなブラリ"

ex.〇〇大作戦、〇〇化計画、〇〇ラガ

アンケート結果

1 「作戦会議」の感想、ワクワクしたアイデア

【若者・多世代交流の推進】

- ・「若者」というキーワードが顕在化していると実感した。旧来の方法での交流では難しいだろうが、今の若者にあわせた新しい交流のあり方や、ターゲット層を高校生・大学生のみならず、20代も含めた若者交流事業や場所として考えていくと面白いのではないかと感じた。
- ・若い方々や、学生さんがたくさん参加されており、また県外の方もいらっしゃって、びっくりした。そのような方々と、地元の住民の方々が、一緒に行動していければありがたい。
- ・中高生のニーズ・大人のニーズ等いろんな人がいて、いろんな要望があることを実感した。子供の遊び場はぜひ欲しいと思った。

【地域資源の活用(「路地・裏街道」)】

- ・裏街道の飲み歩きから坂下神社がクローズアップされた。坂下神社（酒舌）を街なかのイベントに含めると、立体的になるかも知れない。若者が気軽に参加し出会いのある場を、定期的につくっていききたい。
- ・桜企画、裏街道
- ・伊那の裏道の使い方などのアイデアがあり、おもしろかった。
- ・多世代で"裏"街道をテーマに「飲み歩き」を膨らませることができたのがワクワクした。"表"の伊那の認識がみんなにあるから"裏"がじっくりくる感もあっておもしろかった。
- ・居場所、人とのつながりの場所にワクワク（山寺あたりいいね！）
- ・人それぞれの散歩道を紹介し合う。誰でも主体的に参加して、推し路地を歩ける。
- ・飲み、合コン

【継続的なイベント・遊び場の創出】

- ・園児が主役となる催しは、両親、祖父祖母が一緒に出てくる。他の催しとの同時開催（定期的）を考えていきたい。

アンケート結果

1 「作戦会議」の感想、ワクワクしたアイデア

【市民参加型のまちづくりプロセス】

- ・伊那のまちを行政と市民一体となってよくしていこうという考え方。
- ・いなまちプロジェクトや大門マルシェなど実例の話。
- ・市のイベントを行政だけで決めるのではなく、興味のある人が集まって話し合っ決めてるのがよいと思った。
- ・伊那市にはまだまだ多くのポテンシャルがあり、どう生かすかはそこに住む地域の方々の意思次第と感じた。

【「作戦会議」の感想・気づき】

- ・勉強になる話を聞けたり、やはりいろんな方との関わりがすごく楽しいと感じた。
- ・ワクワクするアイデアがパッと次から次に出る場に楽しさがあふれていた。
- ・自分たちの班で出たテーマ（我々は「路地」でした）を話すのも楽しかったし、他のグループのテーマ（「飲み」など）もめっちゃめっちゃ面白かった。
- ・とても参考になった。

2 「作戦会議」で話し合ったアイデアを実際にまちなかで実践する場合、どのような関わり方で参加してみたいですか？

関わり方	回答人数
企画(内容、デザイン等を考える)	9人
出展者、プレイヤー(物販、パフォーマンス等)	2人
運営(準備、片付、情報発信、写真撮影等)	8人
お客さんとして遊びに行く	13人

※複数回答可

アンケート結果

3 まちなかでアイデアを実践する場合、あなたが活かせそうな「得意なこと」や「スキル」などがありますか？

得意なこと・スキル	回答人数	得意なこと・スキル	回答人数
DIY、ものづくり	6人	その他（広報）	1人
企画、場づくり、ファシリテーション	9人	その他（写真撮影）	1人
デザイン（チラシ、看板、SNS発信等）	4人	その他（人脈、ネットワーク）	1人
力仕事（荷物の搬入等）	7人		

※複数回答可

4 まちなかでアイデアを実践する場合、「ここが不安」、「詳しく知りたい」ということは何ですか？

不安なこと・詳しく知りたいこと	回答人数	不安なこと・詳しく知りたいこと	回答人数
仲間が見つかるか不安	7人	道路使用許可等、各種手続き、ルール、制限	6人
予算や資材の調達方法	7人	その他（花見だけが現実的であった）	1人
アイデアをどう形にすればよいかわからない	4人		

※複数回答可

アンケート結果

5 参加してみたい「対話」テーマやまちづくりの取組、その他ご意見、ご感想

【具体的なプロジェクト・施策への関心】

- ・今回のグループワークで話していた、山寺駐車場を居場所として展開させるというのをすごく実現させたいと考えた。大学としてではなくて、個人としてでも参加してみたいと考えた。
- ・伊那の街を良くしたい。リノベーションほしい。全世代たのしくね。
- ・飲み
- ・移住や移住者に関すること。

【まちづくりの仕組み・あり方】

- ・行政が関わるまちづくりの一つとして、市民や現場のニーズに応じたプラットフォーム（ソフト、ハード）の整備やベシックな企画などがあると思う。
- ・居場所に居合わせる人になる。

【今後の参加意欲・感想】

- ・今後も関わっていきたい。よろしくお願いします。
- ・ありがとうございました。こうした皆で伊那を話せる場の提供が、一参加者としてとても嬉しい。また参加したい。
- ・とても勉強になり、参加していきたい。
- ・今回はじめてだったので全貌がわかっておらず申し訳ないが、何回か関わってみたい。
- ・多くのアイデアがあり実現していくと盛り上がりそうと思った。

会場の様子



会場の様子

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場



